

インフォメーションディスプレイ Vol.9



観光学部
助教授
鈴木 聡明氏

城西国際大学 様

千葉東金、東京紀尾井町に続く城西国際大学の3カ所目のキャンパスとして2006年4月、千葉県鴨川市に開設された安房キャンパス。ここには観光学部ウエルネスツーリズム学科が置かれ、年間を通して多くの旅行者、リゾート客でにぎわう絶好の環境の中で、次代の観光を担う人材を育成されています。

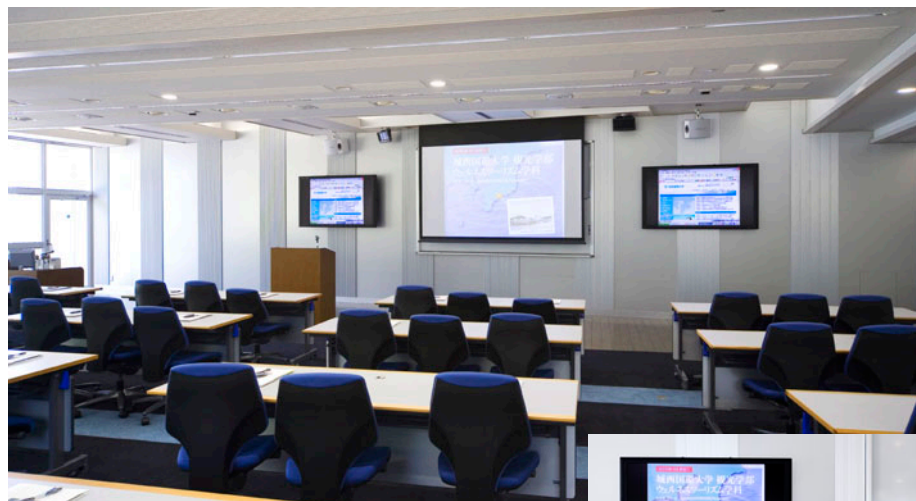


所在地:千葉県鴨川市

明るい陽射しあふれるホールや室内で、
65型の大画面に高解像度の映像を鮮明に表示。
明日を担う人材育成に活用されています。

PN-655×7台
PN-455×2台
導入
(プレゼンテーションホールほか)

城西国際大学様の安房キャンパスでは、2つのホールをはじめ学生食堂やエントランスなど学内各所に大型ディスプレイを設置されています。主に日常の講義や学生への情報提供に使用されていますが、ユニークなのは学生ラウンジや学生食堂など学生の目に触れやすい場所では常にCNNの画面が表示されていること。学生が日頃から英語に親しめるようにするための配慮だそうです。リゾート地のキャンパスらしく、棟内はどこも窓が大きく開放的で、房総の明るい陽射しが降り注ぎます。そうした環境の中でも鮮明な画像を得られることやパソコンの画面を表示される場合が多いことから、高解像度・低反射の液晶ディスプレイである『PN-655』『PN-455』を導入されました。



60名収容のプレゼンテーションホールに設置されている2台の『PN-655』。ホールのいちばん後ろから見ても画面の鮮明さが際立つ。



導入時の評価ポイント

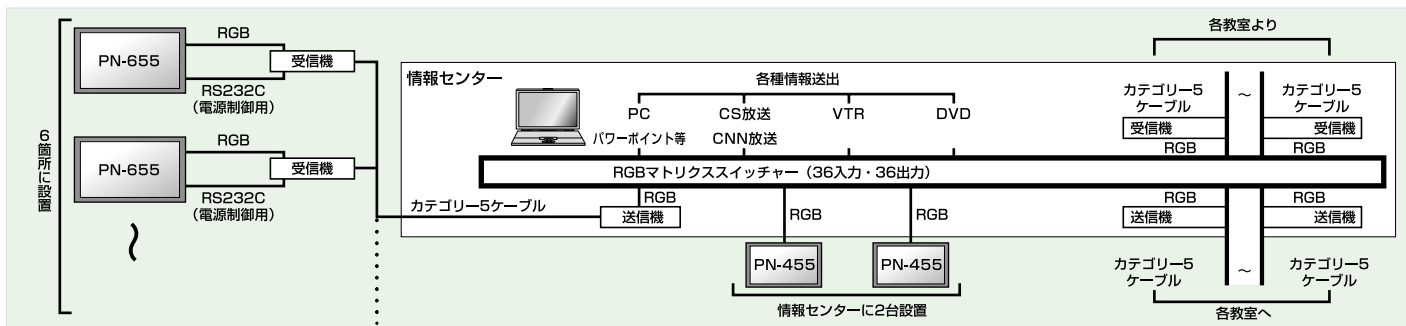
❑ 大きなホールの後方から見ても
距離を感じさせない65型の大画面

❑ PCやDVD、ハイビジョンに最適な
1,920×1,080画素の高精細クオリティ

❑ 外光や室内照明の映り込みを抑え
明るい場所でも見やすい液晶ディスプレイ

❑ 学内各所にある複数のディスプレイを
パソコンで簡単に一元管理

■ システム概略図



導入の経緯 明るく広々とした空間にふさわしいディスプレイの条件に合致するものは『PN-655』しかなかった。双方向のやりとりに適した画面分割機能も評価。

明るく広々と開放的な安房キャンパス。学内に設置するうえでは、学生が見やすいようにできるだけ大型で、陽射しの差し込む場所でも鮮明さを保ち、長時間の表示に耐える焼き付きの少ないディスプレイであることが必要でした。その条件をすべて満たすのが『PN-655』だった、と鈴木氏はおっしゃいます。また、城西国際大学様ではインターネット回線によるTV会議システムを運用中。既に千葉東金と東京紀尾井町のキャンパス間では、双方向でのシンポジウムやイベン

トを実施しています。安房キャンパスでの同システム導入を踏まえ、『PNシリーズ』がカメラ映像とパソコン画面など異なるソースの



学生食堂

情報を画面分割して表示できることもポイントとなりました。



太平洋を望むエントランスロビーに設置された「PN-655」。大きな窓からの眺望にも負けない存在感を見せている。

導入後の感想 一日中ずっと使用していても焼き付きにくく消費電力が少ない。学生の集中度も高まっています。

現在7台ある『PNシリーズ』ディスプレイをパソコンで一元管理。マトリクススイッチャーにより、エントランスロビー、ホール、学生食堂など場所に合わせて表示する内容を1台ごとに設定できます。「ホール以外のディスプレイは原則として朝9時から夜17時まで電源を入れています、これまで焼き付きもなく、

消費電力が少ないのに驚いています。」また、オープンスペースに設置してある『PN-655』を使って学生の作品を発表したりすることで、授業への集中度が高まった、とおっしゃいます。



マトリクススイッチャーなどが収められたラック。ここで全ディスプレイの表示内容をコントロールしている。

今後の展開予定 大型ディスプレイはこれから教育に不可欠のツールになっていく。

「同じ映像や情報でも、大きく鮮明な画面で見るとほうがわかりやすく、受ける印象も強い。大型ディスプレイはこれからの教育に不可欠のツールです。」とおっしゃる鈴木氏。

将来的にはさらに多くのディスプレイの設置を予定されており、さまざまな情報を流し、それを見て学生が何かひらめいたり刺激を受けられる環境にしていきたいとお考えです。



200人収容のホールに置かれた「PN-655」。

● お問い合わせは シャープ株式会社

情報通信事業本部 ビジネスソリューション事業部
電話：(03) 3260-8217 / (0743) 55-6373

2006年7月発行